

IV 参考・統計資料

1 高知県国際交流・国際協力のあらまし

高知県では、平成6年（1994）6月に設置した高知県国際交流推進ビジョン策定委員会での検討結果を踏まえ、平成7年3月に、21世紀に向けての本県における国際交流の基本的な方向を示す「高知県国際交流推進ビジョン」を策定しました。

また、平成9年（1997）3月に、本県における国際協力の基本指針となる「国際協力プラン21・高知」を策定しました。それぞれの概要は次のとおりです。

（1）高知県国際交流推進ビジョンの概要

ア 高知県国際交流推進ビジョン策定の主旨

（ア）ビジョン策定の目的

最近の国際化の進展には目覚ましいものがあり、地方でも国際化を常に意識しなければならない時代となっている。

高知県総合計画のなかで、本県はアジア・太平洋地域をはじめとする諸外国との交流や国際的な技術協力などを進め、多くの人々が集う県づくりを目指している。

また、地方の国際交流を姉妹提携都市との親善交流にとどめず、人材交流や技術協力など交流を質的に高め、地域レベルでの国際協力を推進することが求められている。

このような観点から、21世紀を展望して、高知県の特性を生かした国際交流を総合的かつ効果的に推進するため、その基本方針や具体的施策を示した国際交流ビジョンを策定した。

（イ）ビジョンの性格と役割

国際交流推進ビジョンは、高知県総合計画の基本方向を踏まえ、県の国際化施策を総合的、効果的に推進するための基本方針とするもの。

県民、民間の方々に対しては、県の施策の展開の方向を示し、自主的な活動と積極的な参加、協力を期待するもの。

市町村に対しては、市町村の国際化施策を計画的に推進するための指針となることを期待するもの。

（ウ）目標年次

この国際交流ビジョンは、概ね10年先の21世紀初頭を目標としている。

イ 地域レベルにおける国際交流の意義

～なぜ、国際交流か。何のための国際交流か。～

国際交流は、手段であって目的ではない。国際交流を地域活性化の一つの手段として、交流の目的を明確にした取り組みが必要である。

★国際交流は地域を活性化させる戦略の一つ

《活力と創造性の豊かな地域社会の構築》

交流のあるところに発展があり、発展のあるところには交流がある。

人の交流が活発になると活力と創造性が生まれる。

人と人、地域と地域の交流が新しい意識を生み、文化を育てる。

世界の人々、世界の色々な地域との交流が恒常化することで、より活力があり、創造性の豊かな地域社会へと発展することができる。

〈地域個性の確立〉

外国の異なる文化との交流は、異文化を鏡として、地域の、自分自身の、特質、長所、短所を見つめ直すと同時に、相互の理解を深め、他者と共存しようとするセンスを育むことができる。

幅広い国際交流は、異文化に対する理解と共感を増進させ、自己の文化を再認識することに役立ち、地域の独自性を高めることにつながる。

★国際社会への貢献、相互理解の促進

我が国は、国際社会での役割と責任が増大し、世界の平和と繁栄のために貢献することが期待されている。地方に対しても、国際協力への理解と対応が求められるようになってきている。

国が中心となる国際交流、国際協力に加えて、地方が中心となる国際交流、国際協力が行われることによって国際化のチャンネルが多化する。

地方が活発な国際交流、国際協力を展開し、地域レベル、草の根レベルでの人と人のつながりができ、対外関係のチャンネルが増えることで国際関係の安定化が図れる。

★国際感覚豊かな人材の育成

地域づくりの主体は人。

これからの県づくりには、国際感覚豊かな人材が求められている。

諸外国の人々と多くの分野で交流を行い国際理解を深めることによって、21世紀の高知県を担う国際感覚豊かな人材が育つ。

ウ 国際交流の現状と課題

～何をすればよいか～

(ア) 人的交流

国際化時代に対応できる人材の育成、人の交流を活発にする魅力ある地域づくり

(イ) 経済交流

交通運輸、情報等国際交流基盤の整備を経済交流の拡大に繋げていく戦略づくり

(ウ) 姉妹友好交流

交流目的を明確にし、経済交流も含めた双方向の新しい関係の構築

(エ) 国際協力活動

地域の特色あるノウハウを生かした相互に共同の成果を上げられる国際協力の展開

(オ) ボランティア活動

草の根交流を進めるボランティアの育成と連携

エ 国際交流推進の基本方針

(ア) 交流の目標

人、物、資本、情報などのグローバル化、ボーダーレス化が急速に進んでおり、中央（東京）を経由しない外国との交流、地方対世界の交流が進んでおり、国際化と国際交流の活動の場が大きく拡大しつつある。

21世紀は、高度情報化社会が飛躍的に発展し、その発展に伴う経済成長の中心はアジア・太平洋地域であると予想されている。

このような長期展望のもと、次の3つを基本目標に、国際化社会の中で生きぬいていくため真剣に考え、地方から風穴を開け、地方からの情報発進をしていくという気概で取り組む。

- (a) アジア・太平洋地域との経済・文化交流の最先端地域「高知」の実現
高知は、四国・中国で唯一太平洋に開けた立地特性を持っている。
21世紀までには、四国4県が高速道路で結ばれ、明石海峡大橋など3架橋時代を迎える。
地域と地域、地域と世界との交流、連携を通じた活性化に向けて地域連携軸構想の検討が進んでいる。
- (b) 世界の人々が集い、ふれあい、共に生きる「高知」の実現
高知は陽光がふりそそぎ明るく、四季を通じて住みやすい気候、変化に富んだ自然に恵まれている。
進取の気性に富み、開放的で明るい県民性で、国際的な雰囲気を持っている。
- (c) 世界と広く交流し、国際社会に貢献する「高知」の実現
高知は農林水産業の第1次産業や和紙などの地場産業において、優れた技術の蓄積やノウハウ、そして豊富な人材を持っている。
姉妹友好都市交流をはじめ経済団体、教育機関などでも多様な形で交流が進んでいる。
中南米には、県人移住者を中心としたネットワークがある。

(イ) 交流の基本方針

《国際化時代にふさわしい人づくり》

- (a) 国際化社会の中で力を発揮できる人づくり
これからの国際化社会では、外国人とも自然体で交流できる人材の育成が必要。
そのため、子どもの頃から、ふるさとの歴史や文化を十分に理解し、世界と日本、あるいは高知県との歴史的なつながりやその意味を正しく理解するように努める。
- (b) コミュニケーション能力の養成
英語に限らず、アジア諸国等の言葉や文化を理解し話せる能力を持たないと、厚みがあり息の長い国際交流は期待できない。
国際語として広く世界で使われている英語の教育とともに、アジア諸国等の語学教育や歴史、文化教育にも努める。

《国際化に対応した地域づくり》

- (a) 外国人も魅力を感じ、訪れたいような地域づくり
国際交流を活発化するためには、外国の人々にとっても魅力的な場所として、多くの人々が集まってくる仕組みが必要。
本県の持つ自然や伝統的な文化・産業などに磨きをかけ、世界の人々に体験してもらう演出や、公共施設の利用や街づくりに外国人の目線で見たい対応などを進める。
- (b) 外国人と共に生きる地域づくり
我が国を訪れる外国人や在住する外国人が急激に増加しており、地域住民の生活に種々の影響を及ぼしつつある。
相互に異なる文化的背景や価値観、人権を尊重する共生の心を基本に、外国人にも住みやすく、活動しやすい環境条件を整えるとともに、医療、教育、住宅、行政サービス等の課題への対応を進める。
- (c) 世界に存在感を主張する地域づくり
国際的な地域間交流、連携を通じて地域の活性化を呼び起こすことが必要。
各地域の地理的、経済的特性を生かし、新たな魅力ある個性を創造し、自然、文化、産業等の地域資源に新たな価値を吹き込み、世界への情報発信能力を有する地域づくりを進める。

《地域活性化に向けたローカル色ある国際交流活動の推進》

(a) アジア・太平洋地域との交流の推進

本県は、太平洋に開かれた立地条件を生かし、アジア・太平洋地域との交流における太平洋側の拠点となることを目指している。

本地域との交流をより深く、恒常的なものにするため、調査や情報収集に努め、知的インフラの整備を進める。

高速交通運輸体系や高度情報通信体系の整備を背景に、中四国の他地域や環日本海エリアとの広域的な連携を進める。

(b) 国際姉妹・友好交流の推進

地方対地方の国際姉妹・友好交流は、県民にとって外国を身近に感じる絶好の機会であり、自分自身のものとして取り組むためには、極めて有効な手段。

単なる親善交流から、真の交流へと発展させるため、①交流目的を明確にする ②相互に成果が期待できる ③活動を継続的に行なう ④本音で語る といった視点を大切にし、積極的に推進する。

(c) 県人移住国との交流の推進

県人移住地は、遠隔の地である南米に多く、移住者も一世・二世の時代から三世・四世の時代へと移りつつある。

受け継がれたパイオニア精神や蓄積されたソフト財産を大切にしつつ、県人会の後継者とのつながりの強化に努め、人的ネットワークを通じて移住国との経済や文化交流を深めていく。

《地域に根ざした国際協力活動の推進》

(a) アジア諸国等の人づくりを目指した国際協力

アジアや中南米移住地等の開発途上国は、本県と、歴史的・地理的に深いつながりがある。

留学生や技術研修員等は、高知の良き理解者となることが期待される。

海外技術研修員や留学生を積極的に受け入れるとともに、国際協力事業団などの関係機関との連携を深め受入環境の整備を図る。

(b) 草の根からの国際協力

国際協力活動の活性化には、草の根レベルの自発的な活動や参加が不可欠。

国際協力に対する意識の啓発と草の根レベルの活動を積極的に支援する。

来るべき高齢化社会に向けて、意欲ある高齢者の参加を推進するなど、多様な分野でのグループ育成と支援体制やネットワーク化を進める。

《国際交流推進のための基盤整備》

(a) 交流基盤の整備

陸、海、空の高速交通体系、情報通信基盤の整備を進めるとともに、国際交流のための拠点施設の整備の検討を進める。

(b) 国際交流推進体制の整備

国際交流が、総合的、効率的に進むように、行政と県民、民間団体等の役割を明らかにするとともに活動主体間の連携、協力を進める。

オ 国際交流推進の施策 (略)

< カ 高知県国際交流推進ビジョン体系図 参照 >